

# 1. 評価結果概要表

作成日 H19年10月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401392
法人名	社会福祉法人 瑞幸会
事業所名	グループホームみずほの里
所在地	雲仙市瑞穂町古部乙1392番地1 (電話) 0957-77-4011

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月12日	評価確定日	平成19年11月8日

【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14	年	7	月	1	日			
ユニット数	1	ユニット	利用定員数計	9	人					
職員数	7	人	常勤	6	人,	非常勤	1	人, 常勤換算	3.8	人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建鋼板葺
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000	円	その他の経費(月額)	5,400	円	
敷金	有( )	円	(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )	円	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	200	円	昼食	360	円
	夕食	220	円	おやつ		円
	または1日当たり			円		

### (4) 利用者の概要( 4月 1日現在)

利用者人数	9	名	男性	2	名	女性	7	名	
要介護1	1	名	要介護2	2	名				
要介護3	5	名	要介護4	1	名				
要介護5	0	名	要支援2	0	名				
年齢	平均	86.2	歳	最低	73	歳	最高	98	歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団穂仁会 よこた医院 医療法人征友会 ねぎ歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新緑に囲まれた風光明媚な高台に建てられ、広域農道や国道沿いに解り易い案内板が設けてあり、迷うことなくホームを訪問することができる。法人の特別養護老人ホームの併設のホームとして隣接し、開設時の理念に沿って管理者と職員は、サービスの向上に努め、常に、内外の研修にて研鑽を重ねられている。又、特別養護老人ホームの看護師の指導を受けて入居者の健康の把握に努められている。地域住民との関わりは、特別養護老人ホームの併設の利点をいかして入居者の家族や地域の住民を招待して納涼祭などの催事を実施され、職員は入居者の意思を確かめた上で、行事に参加を促し交流を深める努力をされている。ホーム内は、広々としていて車椅子も可能である。又、入居者の状態を把握した上で、冷暖房を一時停止して窓を開放し、空気の入換えを行っている。入居者本位の支援に努め、常に、寄り添い不安にさせないように家庭的な雰囲気の中で尊厳のある暮らしへの支援に努められている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価については、改善計画シートを作成して改善目標及び改善に向けての検討や実践に繋げる努力をされているが、ホーム側の評価として取り組みの不十分さを誠実に受け止められており、職員の意識をあわせ継続的に実践に向けての努力をされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、すべての項目を真意に受け止め、取り組みの事実を詳細に明記され、職員とも共有を図り、サービスの質の向上への取り組みを実施されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を設置し、7月に第1回を開催されている。職員を含め6名で構成された会議である。議案として、運営推進会議の設置要項説明等を報告され出席された方々に、会議の意義を理解してもらい、異議なしとの評価を受け双方向的な会議によりサービスの質の確保を図られている。併設の特別養護老人ホームの利点を活かし、市町村担当者との連携は密に実施している。今後は、広域市町村圏組合と連携のもと、家族介護教室の開催を予定されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者の日常生活や健康状態を、1ヶ月に1回報告書を送付されている。また、家族の訪問時に報告し、状態変化の際は、電話連絡をして個別の報告をされている。ホームの広報紙は3ヶ月に1回発行されており、家族会への参加も多数あり遠方の家族とも、お便りでの交流を持たれ双方向的に信頼を深められている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの立地条件の不利益は、併設の特別養護老人ホームの利点を活かし納涼祭等施設内で開催される行事において、地域住民及び家族に呼びかけ交流を深められている。他に、町の文化作品展への出品や自治会主催の奉納踊りの見物等、地元の中学生との交流も深められている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の基本理念「尊厳のある暮らし・生活の質の向上・認知症の状態の改善・進行の予防」に添って、併設の特別養護老人ホームの利点を活かし地域住民との関係性が持てるように、支援されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念「尊厳のある暮らし・生活の質の向上・認知症の状態の改善・進行の予防」をホーム内に掲示して、管理者と職員は、常に確認して共有を図り入居者に寄り添って不安にさせない、その人らしくできる事への自信が持てるように支援されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の中学生による福祉体験学習後、中学校より職場体験発表会の招待を受け、入居者と共にお孫さんの発表を聞く為に参加されたり、町の文化作品展への出品や自治会の奉納踊りの見物等、地域の行事に参加して交流を図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価については、改善計画シートを作成して改善目標及び改善に向けた計画内容の検討や、実践に繋げる努力をされている。又、ホーム側の評価として取り組みの不十分さを深意に受け止められており、職員の意識を合わせ継続的に実践に向けて努力をされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を設置し、7月に第1回を開催されている。職員を含め6名で構成された会議である。議案として、運営推進会議の設置要項の説明・年間行事計画・外部評価の結果等を報告され、出席者に会議の意義を理解して頂き、双方向的な会議によりサービスの質の確保を図られている。		

グループホーム みずほの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、他市町村での活動を通じ交流を図り連携に努められている。他に、広域市町村圏組合主催の家族介護教室を予定されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日常生活の様子や健康状態を、1ヶ月に1回、送付し報告されている。又、家族の訪問時に報告をしたり状態変化の際は、電話連絡をして個別の報告をされている。ホームの広報紙は、3ヶ月に1回発されている。又、家族の選択で、ホームに通帳を預けられている入居者については、3ヶ月に1回通帳の写しを送付されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付については、重要事項説明書に明記及び掲示と玄関に苦情受付箱を設けてある。家族会に、御夫婦で家族出席され、広報紙の発行で見る楽しみが出来たとの意見が寄せられたり、発送した家族からは職員にも便りがあり、遠距離の家族とも信頼関係を深められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設の特別養護老人ホームの職員とも、交流の場を持たれている。計画作成担当者は、平成18年1月に特別養護老人ホームより異動され、ホームに勤務して、日々入居者の変化を見落とす事無く寄り添って、接する事ができ、原点を感じている。今後、職員異動の際は、訪問時の家族に口頭で紹介される等の考慮をされると更に良いのではないかと。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの年間研修計画を作成して、積極的な研修の参加に努め、働きながらの職員育成とサービスの質の向上に努められている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、島原半島グループホームケア研究会に参加されている。管理者は、老人福祉施設協議会の委員として島原半島より選出を受けて、施設長会議に参加されている。他に、他事業所の方々とも交流をはかり「OMOIYARIの心」をテーマに島原でネットワークの構築に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者と家族が、安心と納得を大切に利用の調整を心掛け、家族と相談を重ねた上で支援されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>基本理念に基き、入居者と職員が協働しながら、共に支え合える関係作りに努められている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者に常に寄り添い、思いや意向を聞く事を大切に、日々のかかわりの中で、声を掛け些細な気付きの把握に努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の生活歴を基に、東京センター方式の書式を抜粋して入居者本位の介護に努められている。他に、ホーム独自のチェック表を作成(立位訓練・脚上げ訓練・歩行の実施)して記録することで、入居者の失禁を減らす意欲付けに繋げている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入所時の状況や日々の生活を家族に説明した上で、利用者主体の介護計画を見ていただき、家族の同意(記名捺印)を得られている。家族との関係を重視し、意見を聞きサービスに反映されている。又、介護計画の見直しは、3ヶ月に1回で入居者の特性を見極め随時に取り組みされている。</p>		

グループホーム みずほの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に応じ、併設の特別養護老人ホームで毎週土曜日の午前中に、機能訓練士による機能訓練及び健康体操やカラオケ等、多機能性を活かした支援を実施されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院・協力歯科医院との連携を図り、訪問診療及び夜間診療の医療を受けられるよう関係性を密にとられている。口腔外科のマニュアルを作成され、研修及び歯科衛生士のブラッシング指導を受け、適切な介護の支援に繋がられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成され、重度化した場合の看取り介護についての同意書を家族の下に発送後面談をして、内容を理解した上で同意書に確認印を頂くよう取り組みを図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する指針を策定して、施設内研修を実施する事で職員の意識向上を図られている。入居者を写真掲載した場合のおたよりを、他の機関へ配布される折は、入居者と家族を保護する事とトラブル防止の為に考慮されると更に良いのではないかと。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の様子や状態等を把握して、声掛けに努め、町内新聞によって話題性を引き出し、無理の無い対応に努められている。		

グループホーム みずほの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問日、昼食の準備を拝見する事は出来なかったが、入居者と職員が共に語り合いながら楽しく収穫を味わっておられた。献立の彩りや味付けも美味しく出来ていて魚料理を多く取り入れられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の状態観察やバイタル測定を実施後、本人の希望を伺い、入浴を促されている。入浴の時間帯は、午前中又は午後で、週4回の他に、失禁の場合は時候の温度を把握した上でシャワー及び清拭で気持ちよく過ごせるよう配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問日は、入居者と職員と一緒に昼食後の食器を拭き取りや片付けをされていた。他に、文化作品展への出品や壁絵作成・習字・生け花など入居者が意欲を持って楽しみにできる事の支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	訪問日は、ホームの畑で芋ほりに出かけられ昼食の芋ご飯やおやつにふかし芋をして収穫を味わっていた。他に、弁当持参でドライブに出かけられ入居者本位の支援に努められている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関に鍵をかけることなく、職員は、食堂の窓を開放して季節の風を感じながら過ごせるよう配慮されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	非常時に備え、懐中電灯や電池の他に自家発電を備えられている。火災訓練マニュアルを基に消防署北分署立会いで併設施設合同にて夜間総合訓練を実施。避難訓練を年2回実施されている。又、県央地域主催の初期消火操法競技大会に参加の他、管理者が大村で開催される防火管理者講習会で「自衛消防の心がけ」をテーマに講演される予定である。		

グループホーム みずほの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特別養護老人ホームの栄養士に指導を受け、おおよそ1日当たり1300～1600kcalの栄養摂取に留意されている。水分摂取は、朝食後に牛乳を80ccと毎食後のお茶を勧めて、脱水症状にならないよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々として明るく、景色を眺めながら食事ができる食堂やコタツの間、好みに応じて寛ぐ事のできる長いソファ等、入居者の馴染みやすい共用の場として飾りすぎることなく、配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製の表札がある居室は、入居者が寛ぐ事ができるように、使い慣れた筆筒や小物が持ち込まれている。仏壇を持参されている方もあり、今後も家族に相談しながら居心地よく過ごせる居室の配慮を図れるよう心掛けている。		